

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300212		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホーム 新		
所在地	三重県名張市新田2940-6		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和4年5月2日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2491300212-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	4年	2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在新型コロナ禍で、十分に思いを反映することが出来ていないが、お互いの関係性のパイプ役として良く関わりを持ち、その人らしさを尊重した支援に努めている。健康上の変化等の連絡は密に行い、面会に来られなくても安心して頂ける様努めている。家族と協力してこの大変な時期を乗り切っていきたいと常々話し合っている。新1の建物は全天候型の開閉式ドームとウッドデッキの設置があり、夏祭り、運動会、クリスマス会などを合同で行い、行事以外でも利用者、職員共に茶話会などで常に交流し親睦を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年に名張市の郊外に開設された、小規模多機能ホームが併設されているグループホームである。今年、敷地内に第2ユニット「新2」が開設され、職員同士が連携しながら利用者の支援に取り組んでいる。代表者は、管理者・職員の資質向上のため法人内外の研修を受ける機会を設けスキルアップを図っている。コロナ禍においても感染防止に努め、外出支援や事業所内でのイベントやレクリエーションを行い利用者を楽しんでもらえるように工夫している。職員は利用者と積極的な会話に努め、利用者の発言を促し、一人ひとりの思いや希望の実現につなげている。自分らしく笑顔で暮らせるような支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を集約した理念『喜怒哀楽を大切に』を共有している。職員が覚えやすく、対応に困ったときなどは、理念に沿って対応することができる様、見やすい場所に提示している。	職員が意見を出し合い作成した理念「喜怒哀楽を大切に」を事務所やリビングなどに掲示し、常に意識しながら実践に繋げている。職員は利用者と一緒に話す時間を大切に、一人ひとりがその人らしく暮らせる支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は新型コロナ禍で流行防止の対策を取っており、直接交流は図れなかった。ZOOM打合せや研修受講、日々の情報交換等で事業所としての交流に努めた。	公民館の行事への参加・法人運営の保育園との交流・ボランティアの受け入れなど、地域住民との交流は密であった。今はコロナ禍のため中止中であるが、関係性は揺るぎない。現在はZOOMを活用して情報交換が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ対策の為外部との交流の機会は極めて少なく、実施状況は残念な結果である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催も一堂に会しての会議は開かれず、文書にて報告、意見があれば何う形式で開催し、意見の収集に努めている。	運営推進会議は例年、2ヶ月毎に開催されているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催されていない。各構成員に事業所の報告書及び資料を送付し意見や情報の収集に努めている。	会議運営を工夫し、家族が参加しやすい環境を作り、家族の理解が得られるように取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から保険者との連携は密にとっており、メールでの資料等の交換や、参加できる研修には参加している。今年度は「新2」の新設に伴い多くの助言を頂くなどいつもより協力関係は築かれている。	日頃から連絡を密に取り合い、メールや研修で情報交換を行いながら連携を図っている。今年度は新型コロナウイルス対策や新ユニット開設に伴い、助言や指導をいただき、より協力関係が構築された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1度GHケア会議の中で開催。本部の身体拘束廃止委員会は今年度はすべて中止であったが、資料の提供により、他部署の事故、ヒヤリハットをGHでも共有している。コロナ対策の為、不要不急の外出・面会の禁止である意味拘束されている感が強い。	3ヶ月に一回、ケア会議で身体拘束廃止委員会を開催している。管理者が本部から提供された資料を基に研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、事故・ヒヤリハット、虐待などについても学びながら職員間で共有し支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止研修会は、今年度は法人での開催はできなかったが、資料提供により、職員の個々での学びの場としている。グループホームでは高齢で重要疾患の既往がある方が多く、命を守る事が一番であると職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見については必要であればカンファレンスの際に説明している。本人の思いもあり、ご家族と一緒に話し合っ決定していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で契約時に十分時間を取り説明しているが、契約時の家族の心境として入居することで一杯一杯の為、十分納得されているか定かたなく、不安な点については、カンファの際再度説明を繰り返している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会禁止の為十分に要望を聞き運営に反映することが困難である。命を守ることを最優先にすることで了承していただいている。アンケートを実施してみたが思うような結果が得られなかった。	新型コロナウイルス感染症対策のため面会は禁止しているが、家族の要望でのガラス越しの面会の実施・日常の様子やイベントの写真を載せた「新だより」の郵送・受診時の利用者情報の提供・介護計画の見直し時の家族の意見や要望の把握など電話で聞き反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、不都合があれば改善点を検討し、又、毎月のケア会議においても職員間で改善点を出し合い、検討、決定して運営することを遵守している。	毎月のケア会議で職員間で意見を出し合い検討している。管理者は日頃から職員に話しかけ、何でも話せる関係づくりに努め、ワンチームで支援に取り組んでいる。出された意見や提案を運営や日々の支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施しており、法人内の異動希望調査等で希望を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は職員に関する研修は文書にて教育する形をとっている。必要な認知症実践者等の資格講習受講や介護福祉士、介護支援専門員の受験講座も研修の一環として開講、オンライン受講を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は『3密禁止』の為、電話での情報交換にとどまっている。名張の同じ生活圏でケアマネの研修の機会があり、zoomでの交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを十分伺い、出来ることできない事を事前に話し合い、精神的に落ち着き、安心して生活できる環境づくりを一緒にする。新2の新設に伴い新しい職員も増え、入居者との関わりを大切にすることを意識づけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族間のいろいろな問題点を話し合い、本人に対して家族に協力を頂きながら、本人の笑顔での生活を目標に支援している。本人の表情の穏やかさに家族も安心して頂けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはグループホームでの生活に馴染んで頂ける様努め、家族が入居させた事に良かったと思って頂ける様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの場として、支援される側だけに立つことなく、役割を持ち、共に思いやり、自然な共同生活を営める支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所が出来ることできない事を把握して頂き、必要時には様々な場面で本人に一番適切な支援が出来る様協力関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年度は外出の機会も少なく、なじみの方との交流も手紙や電話と限られてしまっている。感染対策をしながら、定期受診には行ってもらっている。	職員手作りの利用者のアルバムを見ながら、昔を懐かしんだり、家族との電話でのお喋りに笑顔の利用者など、コロナ禍で面会や外出を自粛の中、馴染みの関係継続の支援が行われている。事業所の玄関には理事長の恩師(利用者)が毛筆で書かれた木製の看板が掲げられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの会話の機会が多くなっており、共同制作や共同作業、運動会や季節の行事でお互いに協力し合って行動できるよう職員の仲介で、ある程度の距離感をもった支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の関係づくりには特に意識してはいるが、利用中の関係づくりが大切と認識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話で、本人の思いや生活歴を引き出し、希望や意向の把握に努めている。どうしてもうまくみ合わない利用者同士は、食事の席を離したり、食事の時間をずらしたり、散歩に行くなど、距離感をとって生活してもらっている。入浴時の会話は大切。常に利用者の立場に立って対応する様に努めている。	日常の何気ない会話や、入浴時や居室での一対一の会話の中から利用者の思いや暮らし方の希望を把握し、職員間で共有している。利用者の思いに近づけるように試行錯誤しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居以前の利用されていたケアマネや施設からの情報収集に努め、本人の生活スタイル把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	人によって生活スタイルが違うことを念頭に置き、無理強いせず自己決定を促し出来る事は自分でできるよう又、プライドを傷つけないさりげない支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて日々の暮らしぶりを協議する。世界的な異常な状況の打開策が課題で、家族との話し合いも電話対応しかない状況である。介護計画は、介護職員がアイデアや意見を出し、変更なき時は継続し、変更が必要な場合には随時郵送し、家族に同意を得ている。	3カ月毎にモニタリングを実施し、毎月のケア会議でカンファレンスを行い、職員間でアイデアや意見を出し合い計画の見直しが行われている。必要があれば追加・変更を行って。現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、家族の意向や希望は電話で聞いて反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シフト制の勤務の為、申し送りや連絡ノートの活用で気づきや工夫の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本年度の状況下では柔軟な対応が出来ない上に家族との交流も『面会禁止』の対応を取らざるを得ず、生活を楽しく過ごして頂ける様努める事に専念している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は地域資源の利用はほぼできない状況である。お弁当配達やテイクアウトが充実しているので、行事の際は利用者の好みを聞き可能な限り提供させていただくことで利用者の食への楽しみに活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医をご家族の支援の下に利用していただき、情報の提供を行い適切な医師の指示を得ている。	全員が以前からのかかりつけ医を受診しており、受診対応は家族にお願いしている。受診時には情報提供を行い、家族と状況を共有している。母体看護師の週2回の派遣や協力医の24時間オンコール対応など連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。歯科医の訪問診療も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体看護師による定期的訪問時に必要な処置を行っている。日常的に体調の変化があれば都度連絡相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な時には付き添い、必要な情報提供を行い、都度連携を取り合い経過や退院の調整も行っている。現在コロナの為開催されていないが異職種研修等で医療関係者との交流にも力を入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」に同意して頂いているが、実際に重篤になられた時に、本人にとって一番良い対応を再度検討している。グループホームでは医療的処置はできず、その方に一番良い居場所を検討し、家族との話し合いの場で家族が決定できるよう支援している。	入居時に重度化した場合の指針を基に、事業所の方針について説明し同意を得ている。利用者が重度化した場合、家族と話し合いを行い、今後の方針について決定している。利用者が安心して終末期を過ごせる居場所を検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを常備し、毎月母体医療部より課題についての文書による指導がありケア会議にて配布し勉強しているが、新設で未経験の職員が多いため今後小人数で研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間想定して多機能ホームと合同で避難訓練を行っている。地域との協力は地域的に困難なため本部施設との協力関係を強化している。	年2回、多機能型ホームと合同で、火災・地震・風水害の昼夜間想定での避難訓練を実施している。周辺に民家が少なく地域との協力体制を築くのが困難なため、法人施設との協力関係を強化している。また、敷地内に防災倉庫を設置し非常用物品を保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議時にコンプライアンス委員会からの伝達等で、さりげない声掛けやスピーチロックを無くす事に職員一同努めている。まず利用者の方の名前を呼びかけて、話をするを徹底し、その人の意向に添える支援を心がけている。	ケア会議において、コンプライアンス委員会や接遇研修の資料を基に話し合い、さりげない声掛けやスピーチロックをなくす支援に努めている。無理強いせず自己決定を促し、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるような支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話の機会を多く持ち、自己決定ができる環境を作り、無理強いしない支援を入居者の表情をくみ取りながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの時間の流れを把握し、無理強いせず自己決定を引き出しながら、ある程度社会性を大切に生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容、訪問歯科による口腔ケアで、清潔感のある生活支援に努め季節に合った身だしなみを支援している。現在コロナの為家族による衣替えが出来ず、職員と一緒にしている。入浴前には、好きな服を自分で準備してもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒にし、コロナの感染予防の為3密に注意して座席の配置をしている。自分でお膳を運べる方は困難な方のお膳を運んでくださり、下膳も積極的にして頂いている。食器洗いやお盆拭き等もお願いし、手伝ってもらっている。リハビリ目的であっても、感謝の気持ちはみんなでお疲れ様、ありがとう。」を伝えている。	献立作成から調理まで外部委託した食事を湯煎か流水解凍して盛り付けている。特別食は利用者の希望を聴いて職員が作っている。利用者と一緒に配膳・下膳・食器洗い・お盆拭き等を行い、「お疲れ様、ありがとう」と感謝の気持ちを伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理も併せて配食業者に一括依頼している。冷凍で届き湯煎して提供しており、衛生管理も出来ている。好みに少し調味料で調節している。食べられないものは、別のものを注文し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科による口腔ケア及び対処法の指導の下、毎食後の歯磨きうがい支援している。夜間義歯はポリドント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、さりげない声掛けで排泄誘導を行っている。全員がトイレでの排泄だが、足腰が弱っている方は間に合わないことがあり、さりげない声掛けで更衣等の対処をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けや誘導を行いトイレでの排泄支援に努めている。一人ひとりのADLに応じてプライバシーや羞恥心に配慮した排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付け、利用者の排便パターン把握に努めている。医師と看護師との連携に努め服薬調整や、運動、散歩で腸の活性化、こまめな水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、その日の状態を見ながら本人の意向を大切に行っている。気分よく入浴して頂ける様に声掛けを行い、ゆっくりと会話ができる大切な時間である。季節感のある入浴剤やゆず、菖蒲等でリラックスできるように努めている。	日曜日にも入浴支援を行っている。入浴は、基本週3回、利用者の希望やその日の状態を見て決めている。拒否される利用者は、日にちを変えたりタイミングに合わせて支援している。入浴剤を使用したり、柚子や菖蒲を入れて季節感を取り入れている。職員と一対一でゆっくり話ができる大切な時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切にくつろげる場所を多く設置している。気の合った入居者同士の会話の場であるがコロナの対策で少し離れた位置関係を配慮している。照明についても希望を聞き遮光したい訴えがあれば色紙等で調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者を決め、服薬管理をおこなっており、受診時の適切な支援につなげている。薬の効能や副作用についてもすぐに確認できるようファイルして管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやお絞り巻き、自室の掃除で役割を持って頂ける様、得意不得意の把握に努めたうえで達成感を感じ、自信を持っていただける支援をしている。利用者の楽しみの外出でのお茶が出きない為グループホームで和菓子の日を設けるなど工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の現在は外出支援はできない。ドライブをして、気分転換している。いつもの昼食を、希望を聞き外部からお弁当を取ったり、お好み焼きやちらし寿司などを一緒に作り少しでも楽しみを持って頂ける様努めている。	コロナ禍のため以前の様な外出支援は行われていないが、昼食に出前弁当をとったり、お好み焼きやカレーと一緒に作り楽しんでいる。感染予防に配慮しながら、少人数で車中花見ドライブに出かけたり、敷地内を散歩し自然や季節を感じる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは本部で管理している。外出の際少額のお小遣いをもって、買い物を楽しみ、自分で出来るだけ支払いをして頂いていたが、コロナ禍の今は実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もあるが、ほとんどの利用者は電話の取次ぎをしている。手紙が書ける利用者が少なくなっているが、電話の取次ぎで嬉しい笑顔には職員も癒されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔で住みよい空間作りを目指しており、照明、採光、テレビの音量等に付き配慮している。食事づくりの音やにおい、外気浴をすることで情緒の安定を図るなど五感に訴えて心地よい落ち着いた場の提供に努めている。施設内に絵画を配置して癒しの空間づくりにも取り組んでいる。	日当たりが良く明るいフロアは、利用者が思い思いに寛げる共有空間であり、広い中庭の天井は全天候型開閉式ドームになっており、年中楽しめる交流スペースである。壁面には絵画や書道の掛け軸・職員と一緒に作った飾りなどを掲示してある。利用者同士の配置も居心地よく過ごせるよう考慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所で、気の合った利用者同士が話せるように椅子やソファ・机を設置している。気の合う者同士が自然と集まりお喋りを楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族持参の家具等でなじみの空間を作っている。家族の入室は出来ない為、職員と一緒に好みの家具配置で気分転換を図っている。	利用者が使い慣れた好みの家具や思い出の写真、位牌・仏壇が持ち込まれ、今までの生活環境が変わらないように配慮し安心して暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーとなっており、それぞれの居心地の良い自分に出来る事を十分に生かせるよう安全な環境づくりに努めている。		